

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

| 実施自治体名 | 課題の類型1 | 課題の類型2 | 背景・現状・課題の詳細 | 左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組 | 左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組 | 本事業で達成する目標(アウトカム) | 目標の達成度を測る指標 | 現状の数 | 単位 | 本年度の目標値 | 本年度の実績値 | アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等) | 目標等の公表先 |
|------------|-----------|---------------------|---|--|--|---------------------------------|--|------|----|---------|---------|---|---|
| 41327吉野ヶ里町 | ③学校と家庭の課題 | 02 放課後等における多様な体験活動 | 地域のかかわりの希薄化による体験する機会の減少によって、子どもたちの体験活動の機会、および他者との交流機会が減少している。 | ・長期休みの体験教室の開催機会の継続(開催回数計9回目標) ・興味関心の高い教室を実施することに伴う参加のべ人数の増(150人→155人) ・放課後児童クラブや児童館、子どもクラブなどとの連携した活動の展開 | 令和6年度においては、開催回数増に伴う参加延べ人数の増を目標達成のための具体的な取り組みとしてあげており、その計画通り令和5年度に比べて実施回数も参加延べ人数も増やすことができた。長期休みの期間を考え、令和6年度に実施した、夏休み8回・冬休み1回が限度だと思われるため、令和7年度においては開催回数を維持しつつ、より多くの参加が促される教室を実施する。また、学童・児童館をはじめとした、各種外郭団体との連携を令和6年度に続き進めていきたい。 | 子どもたちが安心安全に過ごせる。放課後の居場所を充実させる。 | 放課後子ども教室に参加する子どもの延べ人数 | 150 | 人 | 155 | 155 | 03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた 体験教室の開催回数を継続し、子どもたちの興味関心の高い講座の実施やより多くの子どもたちが参加できる工夫(日程、参加条件、申込方法など)を行ったことで参加するのべ人数が増加し、結果として居場所の充実につながった。 | https://www.town.yoshinogari.lg.jp/lifeinfo/soshiki/shakai_kvoik/u/4/2_1/2/4748.html |
| 41327吉野ヶ里町 | ③学校と家庭の課題 | 01 家庭等における学習習慣の定着 | 家庭学習の習慣化は、町全体で様々なアプローチから推進しているものの、共働きの家庭も増加する一方で、日々の宿題等指導する余裕がない家庭も多い。 | ・年間を通じて行う学習型放課後子ども教室(よしがりがりっ子金曜学級)において、毎回必ず2名以上の支援員と、1名以上の職員を配置し、学習の円滑なサポートを図る。 ・時間の区切りを意識した教室を心がけ、子どもたちが自発的に学習できる環境づくりを行う。 | 令和6年度における目標達成のための具体的な取り組みとして、2名以上の支援員および1名以上の職員を配置することで円滑なサポートを図ったが、これに関してはおおむね達成することができた。年間を通じて開催するため、自然と学習習慣が身につけると感じるが、参加する子どもたち自身の意識を高めていきたい。 | 自発的に宿題に取り組む児童が増え、家庭学習の習慣化が定着する。 | よしがりがりっ子金曜学級へ通う子どもたちへの開始直後と終了時のアンケート結果で、「家庭学習の習慣化やその意識が高まった」と答えた割合 | 0 | % | 65 | 70 | 04 本年度の目標値を上回ることで課題の解決に向けて大きな成果が見られた ほとんどの教室において2~3名の学習支援員および1名以上の職員を配置し、子どもたちが自ら学習に向かう環境や、質問してわからない内容がわかるようになる環境づくりを行うことで子どもたちの学習の習慣化を図ることができた。 | https://www.town.yoshinogari.lg.jp/lifeinfo/soshiki/shakai_kvoik/u/4/2_1/2/4748.html |
| 41327吉野ヶ里町 | ②学校と地域の課題 | 03 学校支援ボランティアの確保・育成 | 学校の授業などで専門的な技術が必要であったり、補助人材が足りなかったりする場合がある。また高齢化や地域の希薄化により学校が地域人材を見つけることへの難易度が以前に比べて上がっている。 | ・吉野ヶ里町人材バンクの制度を利用し、社会教育課(社会教育指導員)が地域人材と学校の間に入り、人材の獲得や調整・派遣を担うことで地域の人が学校や子どもたちと関わりやすい環境を作る。 | 令和6年度に町人材バンクの内容を改正するまで、地域人材の活用に関しては各学校でそれぞれに担う必要があった。 | 学校が地域人材を活用する頻度が増える。 | 学校の人材バンク利用回数 | 0 | 回 | 2 | 0 | 02 本年度の目標値を下回り、課題の解決に向けて大きな改善が見られなかった より多くの人材を獲得し、学校へ提供することを目標としていたが、人材獲得がうまくいかず、結果として学校が活用する場面がなかった。また現状では学校の活用したいタイミングに合わせることはできないため、制度活用に向け改善する必要がある。 | https://www.town.yoshinogari.lg.jp/lifeinfo/soshiki/shakai_kvoik/u/4/2_1/2/4748.html |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |